

事業番号	09 06 03	事業改善シート（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業農村の基盤整備事業			部局	農政部	課・室	農地整備課
				実施期間	S25 ～	E-mail	nochi@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）との対応関係							
重点目標	⑧再生可能エネルギー自給率						
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進	2-1 革新力に富んだ産業の創出・育成		2-2 地域内経済循環の促進			
	3-6 中山間地域での暮らしの価値の再発見	4-5 地球環境への貢献		3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり			

1 現状と課題

・県内の水田は大規模な区画が少なく、50a以上の区画への整備率は2%（全国38位）に留まっている。また、小規模農家が分散してほ場を所有している状況のため、生産効率が低い。特に傾斜地が多く、高齢化も進行している中山間地域ではこの傾向は顕著である。中山間地域では、大型の農作業機械の導入が困難なほ場も多く、過疎化・高齢化の進行により、効率的な農業生産が行えない地域がある。

・コメの需要低下に伴い、畑作への転換が求められているが、野菜や果樹などの高収益作物の作付に必要な畑地化（地表排水を促すために農地に勾配をつけたり、地下水排除を促すために暗渠排水を整備する）は進んでいない。

・農産物の安定生産に必要な用水を供給する農業水利施設の多くが耐用年数を超過する時期を迎えており、更新整備や長寿命化が急務となっている。

2 事業目的

・地域の担い手が効率的な農業を営むための、農地や農業用施設の条件整備を行う。

・地域の特性に応じた高収益作物の作付を実現させるための、農地や農業用施設の条件整備を行う。

・施設の機能診断に基づく長寿命化計画を踏まえ、計画的な農業水利施設の補修・更新を進めることで、安定的な用水の供給を可能とするとともに施設の損壊等による災害を未然に防止する。

3 予算のポイント・主な取組（当初予算又は補正予算時の実施予定）

①生産効率を高める農地・農業用施設の整備

・農業者の費用負担が軽減できる補助事業を活用し、ほ場の区画拡大、用排水路の暗渠化、耕作道の整備等の農地の耕作条件整備を実施する。

・中山間地域において、現場条件が厳しく維持管理に多大な労力を要する農業水利施設の改修や、幅員が狭く営農や生活に支障のある農道・集落道の改良により、農業生産と農村集落の持続的な発展を図る。



【中山間地域の山腹水路】

②用水を安定供給するための農業水利施設の適切な更新

・農業水利施設の長寿命化を計画的に進め、農業用水の安定供給と維持管理労力の節減を図る。特に、損壊により営農に与える影響が大きい重要構造物については、施設の状況に応じて重点的に対策を実施する。

・再生可能エネルギーの普及拡大を図るため、農業用水を活用した小水力発電施設の建設を支援するとともに、売電収入を土地改良施設の電気代や維持管理費に充当し、土地改良区等の費用負担軽減を図る。



【農業用水を活用した小水力発電】

③農村景観や地域資源の活用

・農業水利施設の役割や施設を守り活かしていくことの重要性を地域住民等に理解してもらうため、排水等の農業資産を観光や学びに活用する取組を促進する。



【農業用水路等の現地学習（小学生対象）】

4 成果指標

（推移の凡例 ↑：改善 ↓：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R2年度		R3年度		R4年度		R4年度目標値	達成状況	設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	か所	29	37	↑	48	↑	44	達成	第8次長野県土地改良長期計画（2018～2022年度）の目標値として、施設長寿命化計画を検討した結果、整備が必要と判断した重要構造物の箇所数44箇所を設定した。	
②	農業生産コストを低減するためのほ場の区画拡大面積	ha	147	191	↑	240	↑	228	達成	第8次長野県土地改良長期計画（2018～2022年度）の目標値として、地元の要望や事業効果等を踏まえ、区画の拡大等の整備が必要と判断した農地の面積228haを設定した。	
③	収益性を向上させる畑地かんがい施設の整備（新設・更新）面積	ha	1,775	1,972	↑	2,269	↑	2,223	達成	第8次長野県土地改良長期計画（2018～2022年度）の目標値2,208haは達成する見込みとなったため、地元の要望や事業効果、施設の長寿命化計画等を踏まえ、畑地かんがい施設の新設及び更新が必要と判断した農地の面積2,223haを設定した。	
④	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	kW	3,613	4,103	↑	4,105	↑	4,000	達成	第8次長野県土地改良長期計画（2018～2022年度）の目標値として、施設管理者や民間事業者との協議の結果、農業用水路を活用した小水力発電施設の整備が必要と判断した発電施設の設備容量4,000kWを設定した。	
⑤	新たに観光資源として環境整備された排水等の箇所数	か所	15	20	↑	25	↑	25	達成	排水等を観光等に活用し、施設の役割や保全の重要性等への理解を促進するため、新たに観光資源として環境整備された排水等の箇所数を成果指標に設定した。	

5 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R4年度	6,786,625	6,527,698	1,511,611	14,825,934	994,508	8,881,006	77.4
R3年度	6,426,367	8,262,709	846,389	15,535,465	1,030,827	8,725,877	77.5
R2年度	5,407,043	8,422,277	1,044,240	14,873,560	993,132	8,342,634	73.3

事業番号	09 06 03	事業改善シート（令和4年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業農村の基盤整備事業		部局	農政部	課・室	農地整備課

6 主な取組実績と成果

①生産効率を高める農地・農業用施設の整備

- ・経営体育成基盤促進事業等により10a～20aの狭小な区画を30a以上の区画拡大や水路改修、道路整備を行い、累計240haの耕作条件改善を行った。
- ・中山間総合整備事業により、中山間地域における条件不利地の農業水利施設の改修、集落道の整備を実施した。



【区画拡大を行ったほ場(会染西部地区)】

②用水を安定供給するための農業水利施設の適切な更新

- ・重要な農業水利施設である、水路トンネル2箇所、水路(管)橋4箇所、サイフォン2箇所、ダム(ため池)2箇所、排水機場1箇所の整備が完了し、累計48箇所全ての整備完了により農業用水の安定供給を行うことが出来た。
- ・畑地かんがい施設の新設・更新を合わせ、計12地区の整備し目標値を上回る2,269haを達成した。
- ・農業用水を活用した小水力発電について、目標値4,000kWを上回る4,105kWの設備容量を整備した。



【維持管理費軽減のための小水力発電(ひのきの里地区)】

③農村景観や地域資源の活用

- ・地域の農業を維持発展させるため、農業水利資産を活用した郷土学習の場を設け、地域を愛し地域を支える人材を育成のための現地見学会を小学生を対象に行った。実施後にアンケートを実施したところ、理解度が80%を超え、子供たちも興味を持って参加してくれた。



【農業用水探検隊の実施状況(西天竜円筒分水工)】

7 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
事業計画に基づき計画的に事業を推進した結果、目標値44箇所を達成した。							
指標②	農業生産コストを低減するためのほ場の区画拡大面積	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
事業計画に基づき計画的に事業を推進した結果、目標値228haを達成した。							
指標③	収益性を向上させる畑地かんがい施設の整備（新設・更新）面積	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
事業計画に基づき計画的に事業を推進した結果、目標値2,223haを達成した。							
指標④	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
事業計画に基づき計画的に事業を推進した結果、R3年度実績で既に目標値を上回ったほか、民間事業者による小水力発電施設の整備が進められ、目標値4,000kWを達成した。							
指標⑤	新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
疏水等を観光や地域学習に活用できるよう環境整備を進めた結果、目標値25箇所を達成した。							

8 今後の事業の方向性

(1) 令和4年度の取組実績、成果指標の分析及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・農業用水の安定供給に必要な農業水利施設は今後も耐用年数を迎え、対策工事が必要な施設が多く存在する。策定されてから10年以上を経過している長寿命化計画もあるため、現状を正しく反映した長寿命化計画自体の適切な更新が必要である。
- ・農業者の減少や高齢化が進む中、傾斜地、狭小・不整形な農地などでは、担い手への農地集積が進まず、耕作放棄地の増加や農業生産活動の縮小が懸念される。
- ・補助事業による小水力発電箇所が完了していく中、新規地区数は減少傾向にある。対して民間による新規小水力発電地区数は増加傾向がみられるが、設備容量が小規模なものが多くなっている。
- ・農業者だけでは、農業水利施設や棚田等の維持管理が困難になってきている。

(2) 翌年度以降の事業改善の方策

- ・長寿命化計画自体の適切な更新に加え、計画的な農業水利施設の補修・更新を進めるとともに、土地改良区等による適切な保全管理体制を整え、農業生産に不可欠な農業用水を安定供給する。
- ・農地の区画拡大や平坦化、畑地かんがい施設の整備、排水改良など耕作条件の改善により、担い手への農地集積を促進する。
- ・小水力発電に当たっては、適地調査による候補地の発掘に加え、民間事業者へのPR・用水管理者とのマッチングにより、補助事業と民間開発の両面で小水力発電の促進を図っていく。
- ・農業水利施設の役割や施設を守り活かしていくことの重要性を地域住民等に理解してもらうため、疏水等の農業資産を観光や学びに活用する取組を民間事業者との連携も模索しながら引き続き促進する。

事業番号	09 06 03	細事業一覧（令和4年度実施事業分）	□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検			
事業名	農業農村の基盤整備事業		部局	農政部	課・室	農地整備課

細事業No.	細事業名		R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
1	農業農村の基盤整備事業		8,342,634 千円	8,725,877 千円	8,881,006 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県営かんがい排水事業	直接	農業水利施設の更新・補修、管理の省力化 実施地区 13地区		
2	県営畑地帯総合土地改良事業	直接	畑地かんがい施設の更新、畑地の区画整理 実施地区 12地区		
3	経営体育成基盤整備事業	直接	水田の区画整理、用排水路・農道の整備 実施地区 12地区		
4	県営農道整備事業	直接	農道橋の耐震化、安全施設の整備 実施地区 2地区		
5	県営中山間総合整備事業	直接	中山間地域における農業生産基盤と農村生活環境の整備 実施地区 13地区		
6	団体営土地改良事業	補助金	小水力発電施設設置への支援（1地区） 農業水利施設や農道の改修、区画整理への支援（71地区） 実施地区 72地区		
7	県単農業農村整備事業	補助金	土地改良区等が行う農業水利施設等の整備への支援 実施地区 45地区		
8	農村地域整備基礎調査事業	直接	農業農村整備事業の計画策定等に必要基礎資料の収集整理（整備実績等の調査） 調査対象 77市町村		
9	中山間地域土地改良施設保全管理適正化事業	直接	中山間地域の土地改良施設を保全管理する市町村・土地改良区を対象に会議・研修会を開催 会議、説明会 28回		
10	次代を担う土地改良技術者育成事業	直接	市町村や土地改良区の新任担当者に対して、土地改良技術の基礎的研修を実施 研修会 6回		
11	信州の農業資産魅力発信事業	直接	農業資産の魅力発信と棚田の持続的な管理・運営体制の構築の強化 銀座NAGANOにおける「信州棚田魅力発信フェア」開催 1回		
12	ふるさと信州棚田支援事業	補助金	棚田地域における農地の保全整備等を行う地域住民活動への支援 支援団体 10団体		
13	地下かんがいシステム導入促進事業	直接	地下水位制御システムの本格導入に向け、導入適地を明らかにするための調査を実施 調査回数 4回		
14	電気料金高騰対策土地改良区支援事業	補助金	農業水利施設を管理する土地改良区に対し電気料金の価格高騰分の一部を助成 助成土地改良区 37組織		